

# 埼玉育ちのグローバル人

～アクティブで行こう！な私の生きる道～

第3回「行動力こそがすべて

～無理だと思っていた世界へ～」

英語講師 芝田 絵梨佳



埼玉県マスコット「コバトン」



## 無理だと思っていた世界へ

〈ボリビア旅行での運命の出会い〉

空港の仕事を辞め、転職した先は都内にある大手ビルのオフィス受付でした。仕事を始めて一年が経った頃、当時から交際している日系ボリビア二世の彼の故郷に行きました。

以前勤務していた航空会社の飛行機に乗り、三回の乗り継ぎを経て、一日半かけてボリビアにあるサンタクルスの空港まで行きました。そこから、車で二時間移動したところにサンフアン日本人移住地というところがあります。名前の通り、日本人が移住した地です。アマゾンの大森林を、戦後、日本から移住してきた人々が長い年月と、想像もできないような苦勞をして、人が住める地へと変えていきました。今では、自然豊かな広い土地で農業、養鶏、養豚、養牛などの仕事を持ち移住者の子孫が日系3世、4世として住んでいます。



《日本で出会った日系ボリビア人の彼》

私が行ったときは、入植60周年の記念式典が行われており、タイミングよく参加することが出来ました。60年前に移住してきた日本人の苦勞を忘れてはいけない、今があるのは一世の方々のおかげだということを感じさせられました。

また、季節のイベントとして8月に盆踊りと運動会がありました。盆踊りは、皆が楽しんで踊っている素晴らしい催し物でした。運動会は地区対抗で、小中学校の運動会と一緒にいきます。大人も子供も楽しい運動会で、私も徒競走に出させてもらいました。



《滞在中、仲良くしてくれた青年会のお姉さん達》

ちょうどこの頃、日本から JICA 日系社会青年ボランティアで来た同世代の女性に出会いました。彼女はボリビアで活動する前に、日本をはじめアジアで日本語教師をしていました。同世代でキャリアを積んできた彼女に憧れを抱くと同時に、もともと言語を学ぶことが好きだった私は、まずある資格を取ってみようという気持ちになりました。

〈日本語教師をめざして〉

そのある資格とは、日本語教師養成講座 420 時間受講です。日本語教師になるには、日本語教育能力検定試験に合格するか、日本語教師養成講座 420 時間を受けるかのどちらかが求められます。

早速、日本語教師養成講座に通い始めました。420 時間の勉強は、週 2 回のスクーリングで 1 年ちょっとかかりました。最初は、資格を取って、いつか日本語教師として働ければいいなと思っていました。しかし、授業で模擬授業をやっていくうちに私は教えることが好きかもしれないと感じ始め、養成講座受講中に就職活動を始めました。

すると、運よくサンフアンで出会った JICA の女性から連絡があり、教師を募集している旨を知りました。行動は早く、がモットーな私はすぐに連絡を取り履歴書を送り、見事合格通知をもらうことが出来たのです。

〈サンフアン移住地での日本語教師生活〉

2017年4月、任期1年の日本語教師としてボリビアに行きました。以前の旅行で色々な行事に参加していたことで、採用担当の方に顔が知られており、早期採用に繋がりました。

私が担当したのは小学校4年生と6年生でした。日系人のクラス担当で、日本語の会話は問題なかったのですが、読み書きが苦手な子供達が多かったです。そのため、週4回の授業では日本語教育よりも国語教育を行いました。また、通常授業のほかに、夏季補習授業という一日日本語で過ごす期間が二週間ありました。授業スケジュールを一人で考え、こなさないといけないのですが、日本語の授業以外に好きな科目を教えることができました。私は、子供達とアイスを手作りしたり、図工の時間として卵の殻を使って作品を制作したり、音楽の時間として、日本の歌を教えました。そして、近くの高齢者施設へ行き、練習した歌をプレゼントし、日本から移住し歴史を作り上げてきた一世の方々と交流しました。今思い出しても顔が

ほころぶほど素敵な思い出ばかりです。

授業担当の他にクラス担当があり、私は5年生の副担任になりました。この学校は、日本の学校習慣を取り入れていて、放課後の掃除や帰りの挨拶など、毎日クラスの子供達と日本の習慣を通じて交流することができました。



《クラスの誕生日会準備の様子》

1年の任期はとても短く、あっという間に過ぎてしまいました。契約更新することもできましたが、私は帰国することを選び、学んだことを日本で活かせるような仕事に就きたいと考えました。

〈英語講師としての新しいスタート〉

私は現在、幼稚園のイングリッシュスクールで幼児と小学生に英語を教えています。初めてのことも恐れずに挑戦していく姿勢を持ち、学校という大きな教育機関で学び経験してきたことを存分に発揮しながら、今自分が受けもっている生徒と向き合っていこうと思います。そして、元気に明るく生き生きとしている先生でいたいと思っています。

エッセイを第3弾まで読んでくださった皆さん、どうもありがとうございました。これから海外へ行きたい人、また海外に興味がある人に何か刺激になれば嬉しいです。本当にありがとうございました。